

JA全農ウィークリー

乳牛の生産成績向上へ 札幌で全農酪農セミナー

3
面

8面

福岡に「農のショップ&カフェ musubime」開店



福岡市の天神にオープンした「農のショッヅ&
カフェ musubime」(8面)



鶏卵相場発表で農水省関東農政局の加藤勝参事官(左)から感謝状を受けるJA全農たまご(株)の小島勝社長(2面)



全農酪農セミナーで講演する米国ウィリアム・H・マイナー農業研究所のリック・グラント学長(3面)

- ## 2 独自の鶏卵相場発表で 農水省から感謝状(JA全農たまご(株))

待望の新規ウンカ剤
「ピラキサルト™」登録取得
(営農・技術センター)

- ### 3 第38回全国きき酒選手権大会に協賛 (米穀部)

- #### 4 特集：実りの秋を消費者らと祝う(各県本部)

- ## 5 JAズームイン(JA 東京みなみ)

- ## 6 県本部だより(福岡県本部)

- ## 7 畜産情勢(畜産総合対策部)

- 8 JAグループのお米消費拡大サイト
「NO RICE NO LIFE PROJECT」
開設(米穀部)**

JAタウンショップ紹介

JA 全農えひめ直販ショップ

**Web版JA全農ウィークリーは
こちらから**



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

News!



独自の鶏卵相場発表で農水省から感謝状

全販連時代から市況情報として日々活用される

JA全農たまご(株)

JA全農たまご株式会社は、永年にわたって鶏卵相場を発表してきたことに対し、農林水産省から感謝状が授与されました。



農林水産省関東農政局の加藤勝参事官⑤より感謝状を受けるJA全農たまご(株)の小島勝社長

JA全農たまご(株)は全販連・全農時代を含め1968年から50年にわたり独自の鶏卵相場を発表してきました。そのデータは一般社団法人 全国生鮮食料品流通情報センター(農林水産省外郭団体)の鶏卵市況情報として日々活用されていることから、10月18日の「統計の日」にちなんで10月24日、東京都千代田区の本社で農林水産省から感謝状が授与されました。

感謝状授与後、情報交換を行い、農林水産省では冬本番に備えて鳥インフルエンザ発生に対する緊急訓練を県ごとに実施中とのこと、JA全農たまご(株)からは、行政、団体と協力して、鶏卵の消費拡大に取り組んでいくことなどを報告しました。

JA全農たまご(株)ホームページで毎日発表される鶏卵相場

JA全農たまご株式会社

鶏卵相場

2018年11月11日(木) / 11月10日 現在

	東京			大阪		
	品名	相場平均	単位	品名	相場平均	単位
11	207	196	kg	205	201	kg
12	210	198	kg	207	210	kg
13	210	198	kg	205	210	kg

News!



待望の新規ウンカ剤「ピラキサルト™」登録取得

殺虫剤抵抗性ウンカ類対策として期待

営農・技術センター



「イネ縞葉枯病」を媒介するヒメトビウンカ



セジロウンカ



「坪枯(つばが)れ」を引き起こすトビイロウンカ

ピラキサルト™は、農薬製品としては「ゼクサロン®箱粒剤」という名称で単剤の農薬登録を取得しました。ピラキサルト™は既存剤に抵抗性を発達させたウンカ類に対して高い効果を示し、

イネを加害するウンカ類にはトビイロウンカ、セジロウンカ、ヒメトビウンカがあり、古くからイネの重要害虫として知られています。近年、これらウンカ類の殺虫剤抵抗性やヒメトビウンカが媒介するイネ縞葉枯病が各地で問題となっています。全農は抵抗性ウンカ対策剤としてデュポン・プロダクション・アグリサイエンス(株)と「ピラキサルト™」の共同開発に取り組み、2018年9月21日に農薬登録を取得しました。

育苗箱施用による長期残効性、ヒメトビウンカが媒介するイネ縞葉枯病の感染防止効果を有します。また、水稻への安全性が高く、播種時(はしゅ)から移植当日まで使用することができ、(混合剤の成分によっては播種時処理ができない製品もあります)。

ピラキサルト™はウンカ類・ヨコバイ以外の害虫には効果を示さないため、単剤では販売をせず、各種混合剤を販売する予定です。現在11種類の混合剤が登録取得されており、対象病害虫のニーズに合わせて薬剤を選択することができ、今後、展示試験などを通して、ピラキサルト™剤の普及に取り組んでいきます。



乳牛の生産成績向上を目指して

札幌で全農酪農セミナー開催

畜産生産部



粗飼料の繊維消化性について解説するリック・グラント学長

リック・グラント学長は、「粗飼料で牛乳を生産する」粗飼料の消化性に関する考え方と最新の知見について」をテーマに講義しました。

畜産生産部は10月31日、札幌市のホテルモントレ札幌で全農酪農セミナーを開きました。セミナーでは、全農と共同研究をしている米国ウィリアム・H・マイナー農業研究所からリック・グラント学長を講師に招き、酪農家、JAやホクレンの職員、獣医師など約150人が受講しました。

北海道では多くの酪農家が道内産の粗飼料を利用していましたが、天候などの影響から品質は毎年異なっていました。特に、今年は6、7月頃の長雨の影響で自給粗飼料の品質があまり良くありませんでした。今回、共同研究の新たな知見として、乳生産性を低下させず、品質の低い（牛が消化しにくい）粗飼料を有効に活用する方法を紹介いただき、大いに参考になる講義でした。



リック・グラント学長の講義に耳を傾ける参加者



第38回全国きき酒選手権大会に協賛

きき酒日本一の座を目指して真剣勝負

米穀部



「個人の部」と「団体の部」の表彰式

地方予選を突破した72人の各県代表選手が、「個人の部」と代表チームによる「団体の部」で、日本酒の知識と日頃鍛えた感覚を競い合い、また、現役の大学生が参加する「大学対抗の部」、外国の方だけで競い合う「インターナショナルの部」をあわせて、四つのカテゴリできき酒日本一を競い合いました。

平成30年のきき酒日本一を決める「第38回全国きき酒選手権大会」（日本酒造組合中央会主催、全農協賛）が10月26日、東京都内のホテルで開かれました。



きき酒する選手の方々

果たしました。また、「大学対抗の部」では京都大学が、「インターナショナルの部」では韓国代表がそれぞれ初優勝を飾りました。

入賞された皆さんには、全農として「おこめギフト券」を贈呈しました。

全農は、産地と取引先に複数年契約などを推進し、高品質な原料米の安定供給を通じて、今後も安定的な日本酒造りに寄与するとともに、今回のような日本酒ファンを増やす機会を通じて「國酒」日本酒のPRにも積極的に取り組めます。

各県本部が実りの秋を消費者らと祝う

収穫の秋に各県本部は収穫祭などを開催、参加した来場者に管内の特産や農畜産物をPRし、ともに実りの秋を祝いました。

山形県本部

第68回山形県農林水産祭

新品種米「雪若丸」求め大盛況

人気を集め、行列ができた「雪若丸」の量り売り



山形県本部は10月13、14日、天童市で開かれた第68回山形県農林水産祭に出店し、県産農産物を販売しました。

販売ブースには、今秋本格デビューした「雪若丸」などの精米、リンゴ、和梨、庄内柿の詰め放題、きのこなど、お買い得な秋の味覚が豊富に並びました。

中でも「雪若丸」の量り売りは、1合から購入できることで大人気。初めて食べる人もその味を確かめようと、次々に買い求める人で行列ができ、大いににぎわいました。

群馬県本部

収穫感謝祭2018

～ぐんまの農業応援団大集合！
耕そう、大地と地域の未来。～

人気のキャベツの抱え取り



JAグループ群馬は10月13、14日、前橋市のJAビル南側大駐車場で「収穫感謝祭2018」を開きました。

この催しは、豊かな実りへの感謝と生産者と消費者との交流、そして群馬県農業の重要性や農業・農村の果たす多様な役割を考える機会として毎年開催しています。

群馬県本部が出店する恒例のキャベツの抱え取りは、有料企画でありながら、開場2時間前から並ぶ人がいるほどの人気です。今年のキャベツは大玉だったため、最高は11玉でした。他にも県産農畜産物の特売、上州牛・上州豚・きのこバター炒めなどの無料配布、ステージイベントなどが行われ、2日間で約6万人が来場し、大いににぎわいました。

新潟県本部

おいしさ、みのる大収穫祭2018

旬の新潟県産食材を使用したコース料理に舌鼓を打つ参加者



新潟県本部は10月27日、新潟市内のホテルで、「おいしさ、みのる大収穫祭2018」を開き、公募の一般消費者(143人)や生産者・JA(46人)など計207人が参加しました。

イベントでは、旬の新潟県産食材を使用したコース料理の提供、県産農畜産物の紹介、県産農畜産物などが当たる抽選会などを行い、全農の経営理念である「生産者と消費者を安心で結ぶ懸け橋」となるイベントとなりました。

参加者からは、「普段何気なく食べている食材には、目に見えない苦労がたくさんあることを学んだ」などの意見をいただき、充実した収穫祭となりました。



県産農畜産物などが当たる抽選会

富山県本部

KNB秋の大収穫祭

販売コーナーには県産野菜が勢ぞろい



富山県JAグループが協賛する「KNB秋の大収穫祭」が10月7日、富山市の富山産業展示館で開かれ、富山県本部職員が旬の県産野菜やとはむぎ豆乳飲料、とやまポークの串焼きのPR販売を行いました。

会場ではJA大使によるクイズや、富山米新品種「富富」にちなみ先着222人に「富富」のおにぎりが振る舞われました。会場は終日にぎわい、約1万5000人が来場しました。



毎日多くの人でにぎわう店内



平成29年10月に「Farmer's market 東京 みなみの恵み」を開設

JA東京みなみは、平成元年4月に日野市・多摩市・稲城市の3市4JAが合併したJAです。都市化が進む中、農地面積や農業生産高は年々減少の傾向ですが、野菜生産をはじめ梨やブドウ、ブルーベリーなどの果樹栽培も盛んです。JA東京みなみでは、JA

自己改革の中核としてJA直営の大型農産物直売所「Farmer's market 東京みなみの恵み」を平成29年10月、日野市に開設しました。地元農産物や、全農ミートフーズ(株)直営店での国産精肉販売や総菜店、レストランも併設しています。営業時間は午前10時00分〜午後8時00分とし、多くの消費者に利用していただけるよう営業しています。

「みなみの恵み」の一番の特色は、買い取り販売方式を導入したこと。従来の委託販売は売れ残りや引き取りの手間が発生します。そういった出荷者の時間や生産物の口を抑えるため

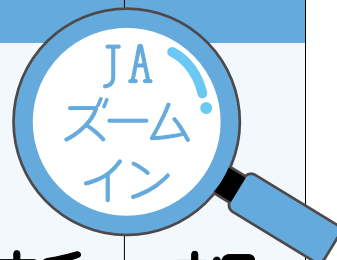
「みなみの恵み」では、現在130人の出荷者が登録していますが、直売組織はつくらず、価格設定などはJAが行い、出荷者は農業生産に専念できる環境づくりに努めています。来店されるお客さまが選びやすいように販売棚を工夫し、農産物の本来の味を知ってもらうため試食販売も充実させています。

「みなみの恵み」の一番の特色は、買い取り販売方式を導入したこと。従来の委託販売は売れ残りや引き取りの手間が発生します。そういった出荷者の時間や生産物の口を抑えるため



全農ミートフーズ(株)直営店の国産精肉販売や総菜店を併設

JA東京みなみでは、直売所による販路を確保することができました。今後は、各支店の指導経済渉外担当者(TAC)が各生産者の現場を訪問し、生産方式や栽培品目などの提案をして、農業生産の拡大はもとより農家所得の増大に向けた活動を行っていきます。



都市農業存続のため、新たな直売所へのチャレンジ



JA東京みなみ(東京都)



概要 平成30年3月31日現在

正組合員数	1993人
准組合員数	7437人
職員数	157人
販売品取扱高	1億1千万円
購買品取扱高	5億1千万円
貯金残高	1672億8千万円
長期共済保有高	3103億5千万円
おもな農畜産物	トマト・ネギ・梨・ブドウ・ブルーベリー・ダイコン

につながる仕組みとなっています。

遠方の出荷者対応で集荷拠点を4カ所設置

出荷者は管内3市の全地区が対象となっているので、遠方で出荷することが難しい生産者のために集荷拠点を4カ所設置し、1日2回(午前と午後)専用車両で集荷しています。

県本部 だより

福岡県本部

自己改革 実践中!

広域集荷加工施設を設置 生産振興と直販機能強化

物流コスト削減などにも取り組む

福岡県においては、高齢化などによる生産面積の減少に伴うJA集出荷体制への影響や生産量減少に伴う

市場シェアや価格形成力の低下による生産者所得への影響などに対応するため、平成22年5月に農産加工センター機能の運営受託を行うVFセンター篠栗を設置しました。さら

に、平成25年4月には、県内の各産地から青果物の原体や製品を荷受けし、包装・加工などの機能を備えた買い取り直販事業を拡大するためのVFセンター（松田）を県域の拠点施設として設置し、本格的な青果直販事業を開始しました。引き続き、平成26年11月に遊



11月1日から稼働し、ミカンのパッケージ作業が進む県南VFステーション

休施設を活用した青果パッケージセンター（大木町）を設置し、青果物のパッケージ事業の運営モデル構築を進めてきました。

県南に直販・包装加工の 広域集出荷加工施設設置

今回、福岡の県南エリアにおいて、直販・包装加工機能を備えた広域集出荷

【施設の概要】

①名称

県南VFステーション

②設置場所

福岡県八女郡広川町大字広川2462-1

③施設規模

最大処理量 400t程度（イチゴ）、
従業員 100人程度

【事業方式イメージ】



加工施設「県南VFステーション」（平成30年11月1日稼働）を設置し、さらなる生産振興と販売力の強化に取り組むこととしました。

この施設の設置により、バラ出荷受け入れ・包装

加工作業受託による生産者労力の軽減で圃場管理の時間が確保され品質向上が期待され、さらには規模拡大などに取り組む生産者が見込まれます。また、買い取り販売を実施することにより生産者手取りの安定化と、包装加工機能を活用した実需者ニーズに対応した商品作りによる直販事業体制の拡充、販売力強化や広域の集出荷拠点としての機能発揮による物流コストの削減などに取り組むこととしています。

イチゴ中心に他作物へ パッケージ作業拡大

パッケージする品目は、イチゴを中心としてブドウ、スモモ、ミカン、イチジクなどを行い、効率的な周年稼働の実現に向けて取り組んでいきます。

運営上において、作業員の周年雇用を確保するため、県本部の他事業所との人的資源の流動化を図りながら、雇用基盤づくりを行います。

[畜 産 情 勢]

(畜産総合対策部)



牛肉

弱もちあいの展開も

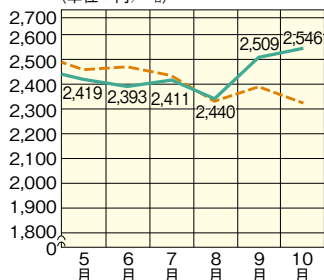
10月の成牛と畜頭数は、速報値で約9万頭(前年比99.8%)と前年をわずかに下回りました。

10月の東京市場枝肉卸売価格は、速報値で和牛去勢A5が2843円(前年比102.2%)、和牛去勢A4が2546円(同108.8%)、和牛去勢A3が2311円(同114.1%)、交雑牛B3が1595円(同115.0%)でした。

農畜産業振興機構が公表した11月の国内出荷予測頭数を品種別にみると、和牛が約4万9千頭(前年比102.1%)、交雑牛が約2万5千頭(同105.1%)、乳用種が約3万1千頭(同96.8%)で、全体では約10万6千頭(同101.3%)と見込んでいます。

10月の枝肉相場は、行楽需要や共助会なども多く、全体的に堅調な相場展開であった一方、11月については出荷頭数が前年比でやや多めに推移するとの予測から、弱もちあいの相場展開も想定されます。

牛枝肉相場(東京市場・和牛去勢A-4)
平成30年5月～30年10月
平成29年5月～29年10月
(単位:円/kg)



豚肉

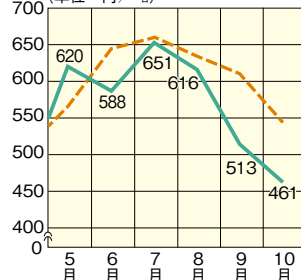
おおむね400円台での展開

10月の全国と畜頭数は、速報値で約148万頭、前年比103.3%となりました。

10月の東京食肉市場枝肉相場は、速報値で461円/kg(前年比84.1%、前月比89.9%)となりました。気温も下がり、末端での荷動きが活発になってきたものの、10月に入り出荷が安定してきたことや輸入豚肉(チルド)も依然3万ト/月台での入荷となっていること、昨年と違い各社がうで・ももを中心に一定程度の冷凍在庫をもっていることから、相場は安値で推移しました。

農畜産業振興機構の11月出荷予測頭数は、約151万頭(前年比102.8%)です。バラを中心とした鍋商材の動きは引き続き好調が見込まれるものの、昨年以上の出荷頭数が見込まれることに加え、輸入豚肉(チルド)も安定した入荷が予想されることから、国産冷凍在庫が潤沢であることから、10月に引き続き安値で推移するものと考えられ、おおむね相場(税込み)は400円台での展開となるものと予測します。

豚枝肉相場(東京市場規格「上」)
平成30年5月～30年10月
平成29年5月～29年10月
(単位:円/kg)



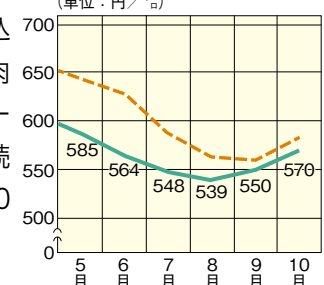
鶏肉

寒暖差による需要拡大に期待

10月の平均相場は、もも肉570円/kg(前月比20円上げ)・むね肉270円/kg(同5円上げ)、正肉合計で840円/kgと前月比25円上げも、前年比では65円の下げとなりました。もも肉は、月中で一時的な下げがあったものの、気温の低下による需要の高まりから月末581円を記録し、次月への弾みとなりました。むね肉は、サラダチキン・鶏チャーシューなどの需要で堅調に推移しており、月初267円・月末270円ともちあい圏内となりました。

11月は、平年よりやや高めと予報されている気温や、葉物野菜が高値で推移していることなどから、鍋物需要への影響が心配されます。その一方で、11月は日によって寒暖差が激しいことが予報されており、もも肉は鍋物などの利用頻度増加が見込まれ月平均590円、むね肉もサラダチキン・鶏チャーシューなどの需要が引き続き堅調のため、月平均270円のもちあいと予測します。

ブロイラー市況(もも肉・東京)
平成30年5月～30年10月
平成29年5月～29年10月
(単位:円/kg)



鶏卵

供給量増加で弱含みの展開か

10月の東京相場の月間平均は、Mサイズ基準値194円(前年比△17円)となりました。気温の低下により回復基調にある生産状況を受け、大玉は下押しとなりましたが、全体ではもちあいの展開が続きました。

業務筋は大手外食チェーンにおける鍋物メニューなど鶏卵を使用したキャンペーンが目立ったことや、9月と比較して天候が良かったこともあり、堅調な荷動きとなりました。

テーブルエッグについては、上期決算などにより特売需要の盛り上がりが見られた9月と比較すると、やや低調な荷動きでした。

今後は、年末に向けて最需要期を迎えますが、例年と比較して供給量も増大することが予測されます。また、全国的な供給増大によって、夏季から続いていた東日本から西日本へのスポット出荷の動きも弱まりつつあります。

鶏卵相場(東京・Mサイズ基準)
平成30年5月～30年10月
平成29年5月～29年10月
(単位:円/10個)



農の SHOP & CAFE musubime

福岡の中心 天神にオープン

女性職員のアイデアやセンス、思いがあふれる店内

【福岡県本部】



女性職員プロジェクトのアイデアやセンス、思いがあふれている「農のショップ&カフェ musubime」店内

県内産の野菜や果物を使ったスムージー

福岡県本部は平成20年から10年間営業してきた「お米カフェmusubime」を、10月末に閉店し、11月1日から新たに福岡市の全農ふくれんビル1階に「農のショップ&カフェ musubime」をオープンしました。

「食に関心があり本物志向の消費者に、福岡の生産者

が思いを込めて作った『特別な商品』を紹介する場所」をコンセプトに、県内で取れた農畜産物を原料とした加工食品を中心にPR販売することで、生産者と消費者をつなぐ、人と人を食で結ぶ機会を創出します。

県内20JAで作られた6次化商品や、県内産青果物を原料とした飲料品などの豊富なラインナップに加え、県内産の新鮮な野菜や季節の果物、ふくれん豆乳を使ったスムージーも販売しています。

また、今後ショップ内でジャムづくりやお茶の入れ方などの体験型セミナーや、JAが青果物を持ち寄って販売する「musubimeマルシェ」を開催する予定です。

ショップを立ち上げるにあたり、コンセプトから店内レイアウトや装飾、スムージーのレシピにいたるまで、

全農ふくれんの女性職員プロジェクトが考案しました。店内のいたるところに彼女たちのアイデアやセンス、思いがあふれています。

開店日 平成30年11月1日(木)

所在地 JA全農ふくれんビル1階
福岡市中央区天神4丁目5番23号
092-714-3910

営業時間 平日 10:00~16:00
土・日・祝日は定休日

NO RICE NO LIFE
PROJECT
JAグループのお米消費拡大サイト

ポータルサイト「NO RICE NO LIFE PROJECT」開設 米穀部

JAグループでは、米消費拡大の取り組みをまとめたポータルサイト「NO RICE NO LIFE PROJECT」を開設しました。お米の楽しさや食品としての魅力にあらためて気づいてほしいとの思いから、サイト名に「NO

RICE NO LIFE(お米のない人生なんて)」を掲げ、「お米ダンス」「なるほど!米の新発見」「おにぎりダイエット」などを公開中です。今後も新しいコンテンツをどんどん配信していきますので、ぜひご覧ください!

ポータルサイトはこちらから



JAタウン ショップ紹介

JAタウン |

検索
クリック

JA全農えひめ直販ショップ



JAタウンは
こちらから



【お歳暮にも最適】紅まどんな約2.5*
10~15玉入り(3L~L).....6500円

愛媛のブランド柑橘「紅まどんな」は、JAタウンの人気商品が選ばれるJAタウンアワード果物部門では2年連続第1位を獲得するなど、毎年好評を得ています。

「紅まどんな」の名称は、愛媛県オリジナル品種「愛媛県試第28号」の中で、糖度・酸度・外観などの品質基準をクリアし、愛媛県内のJAを通じて出荷する商品のみが名称を使用できる「信頼の証」です。お召し上げの際は外皮が薄いので、カットしていただくのがおすすめです。

ゼリーのような新食感、甘い果実と香りが口の中いっぱいに広がる「紅まどんな」をぜひ、ご賞味ください。年末の贈答品としてもご利用ください。

なお、ご紹介した商品は、11/30(金)まで、FAXでもご注文を承ります(ご自宅宛金引換のみ)。※天候などによりご希望に沿えない場合があります。

【ご注文方法】①商品名、規格、数量②郵便番号③住所④氏名⑤電話番号⑥FAX番号をご記入のうえ、FAX番号03-5218-2517までご送信ください。商品代金の他、送料がかかります。

JA全農のインターネットショッピングモール ▶ご注文は <http://www.ja-town.com>
▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報、商品等の発送にのみ使用します。